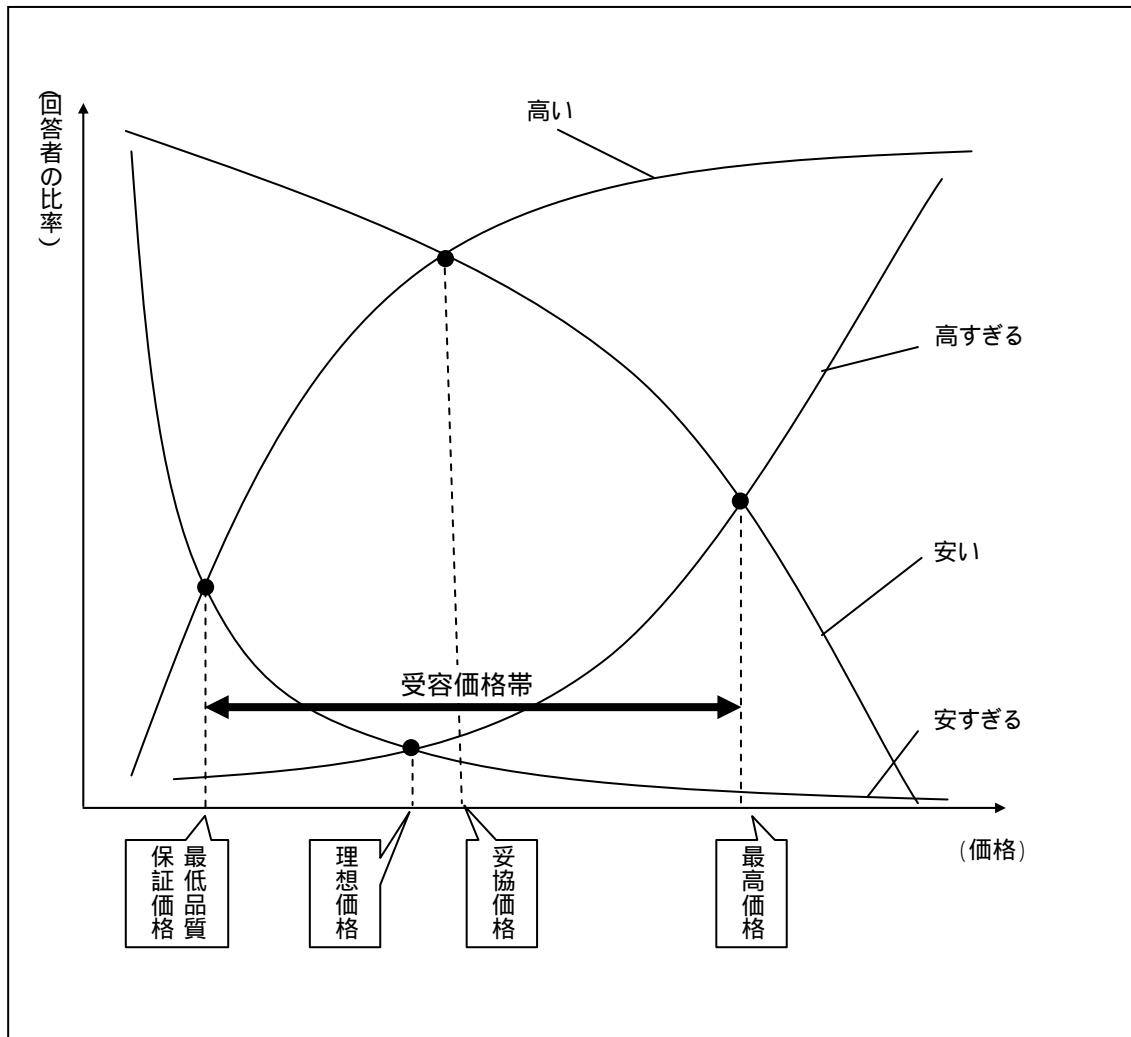


## 第 章 食肉の価格感度測定

1 価格感度測定について

価格感度測定とは、PSM( Price Sensivity Meter [Measurement] )とも呼ばれる、既存データのない場合の受容価格範囲・最適価格を知る手法として知られているが、例えば牛乳のように日々価格が変動するような商品の受容価格範囲を知る上でも用いられている。国産和牛、和牛以外の国産牛、国産豚ばら肉、鶏もも肉の4種類について、受容価格範囲を調べた。

図表 -1 価格感度測定による受容価格帯推定方法



## 1 価格感度測定について

価格感度測定を行うに当たり、国産和牛、和牛以外の国産牛、国産豚ばら肉、鶏もも肉の4種類について、以下の4つの質問をした。

(質問1) あまりにも安くて品質に不安を感じ始める100g当たりの値段

(質問2) 品質に不安はないが、安いと感じ始める100g当たりの値段

(質問3) 品質的に買う価値はあるが、高いと感じ始める100g当たりの値段

(質問4) いくら品質が良くても高すぎて買えないと感じ始める100g当たりの値段

上記の質問について、どの価格で何%の回答者がそのように思うのか、累積の比率をグラフ化すると「図表 - 1」のようになる。この図で、「最低品質保証価格 (PMC)」は、質問1 (安すぎて品質が不安と感じる) と質問3 (高いと感じ始める) の回答数が同数になるポイントで、安さの限界点とされている。一方、「最高価格 (PME)」は、質問4 (高すぎて買わない) と質問2 (安いと感じ始める) の回答数が同数になるポイントで、高さの限界点とされている。このPMCとPMEとの間の領域が、受容価格帯として算出される。

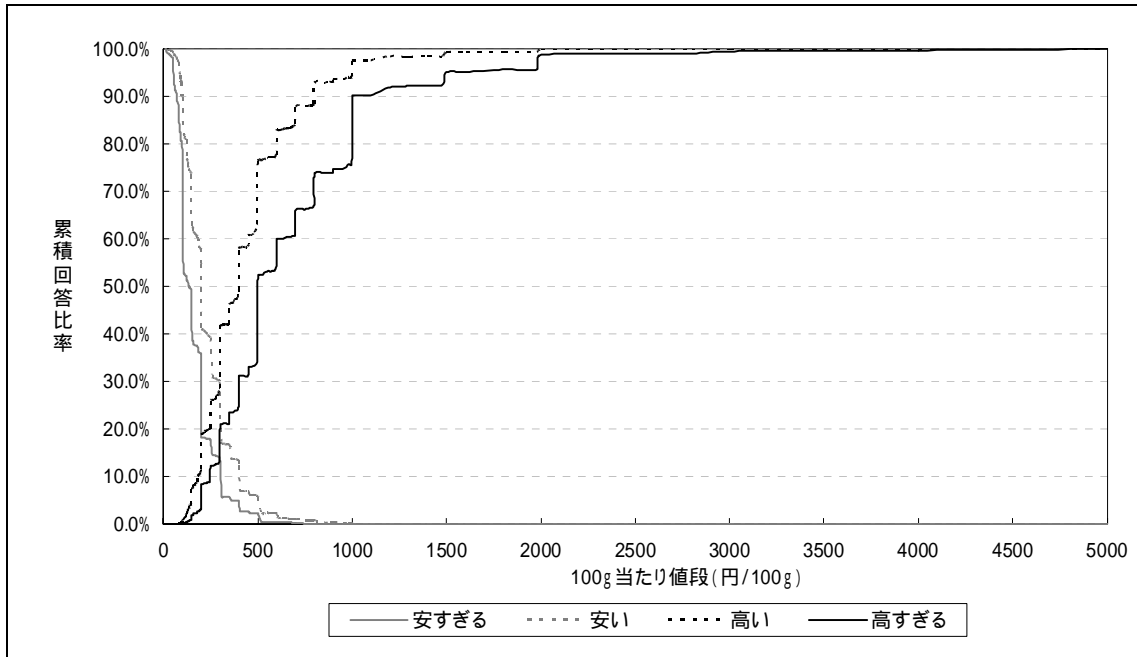
需要価格帯の間にこれくらいまでは仕方がない「妥協価格」と本当の意味で消費者が望む「理想価格」も算出される。

また、より直接的に以下の質問をし、受容価格帯と比較した。

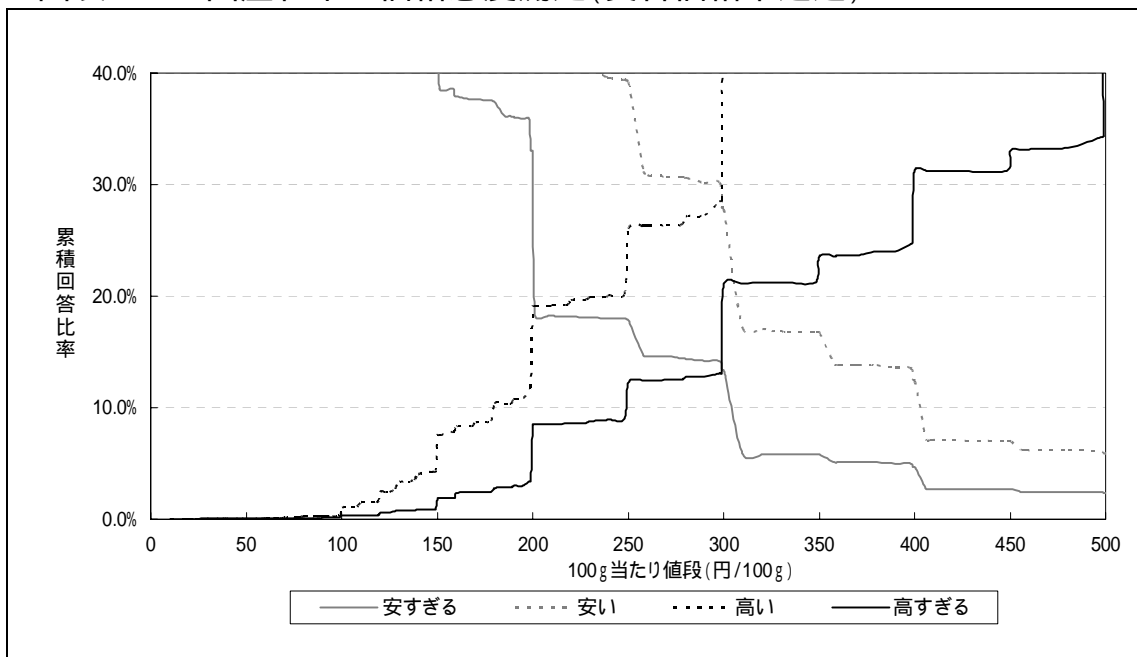
(質問5) ちょうど良いと思う100g当たりの値段。

2 国産和牛の価格感度測定

図表 - 2 国産和牛の価格感度測定(全体像)

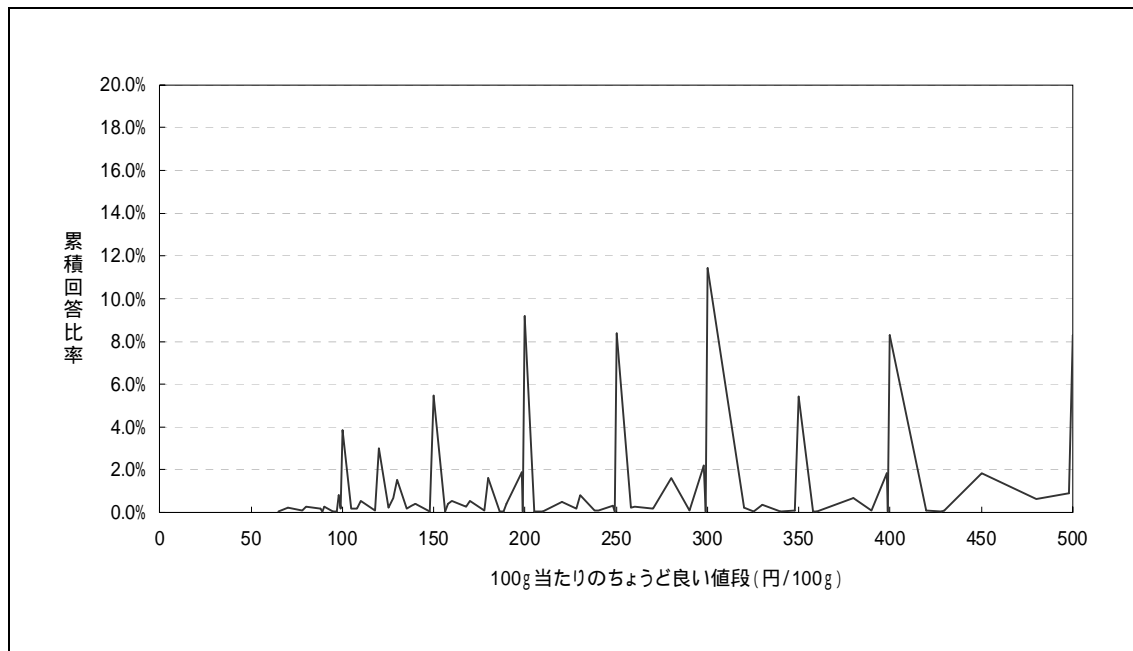


図表 - 3 国産和牛の価格感度測定(受容価格帯近辺)



## 2 国産和牛の価格感度測定

図表 - 4 国産和牛のちょうど良い値段回答比率



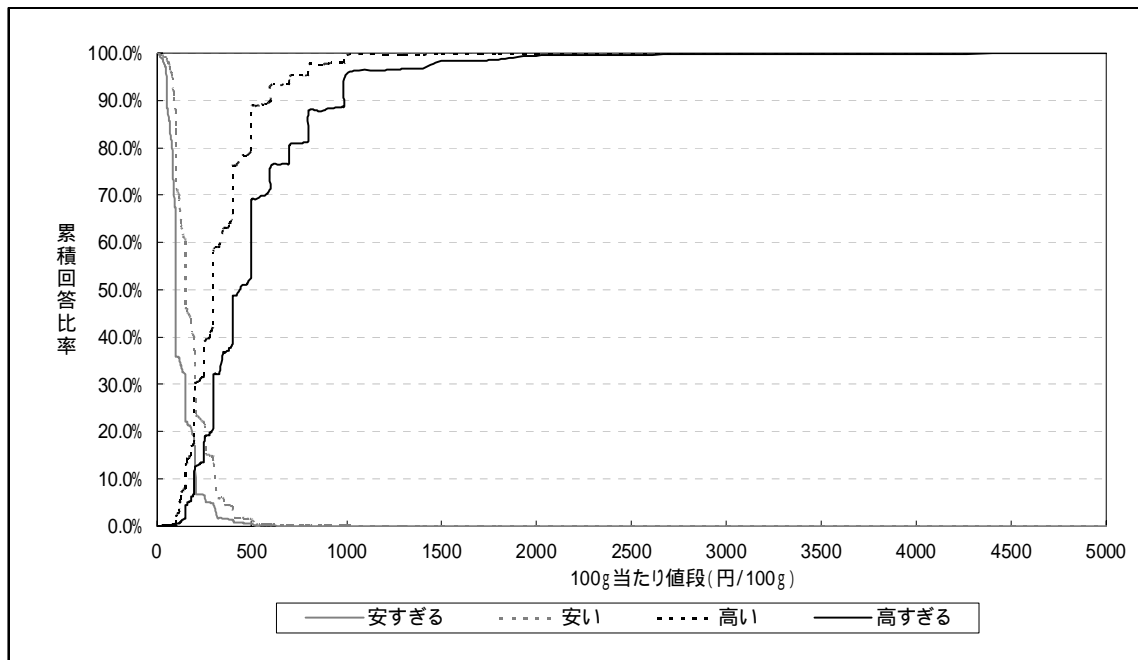
国産和牛の価格感度測定について、全体像を「図表 - 2」に、受容価格帯近辺のグラフを「図表 - 3」に示す。

このグラフから受容価格帯を算出すると、「最低品質保証価格」が200.9円 / 100g、「最高価格」が306.2円 / 100gとなり、消費者は国産和牛100g当たり200.9円 ~ 306.2円(価格幅105.3円)を適正な価格の範囲と感じていることがわかった。

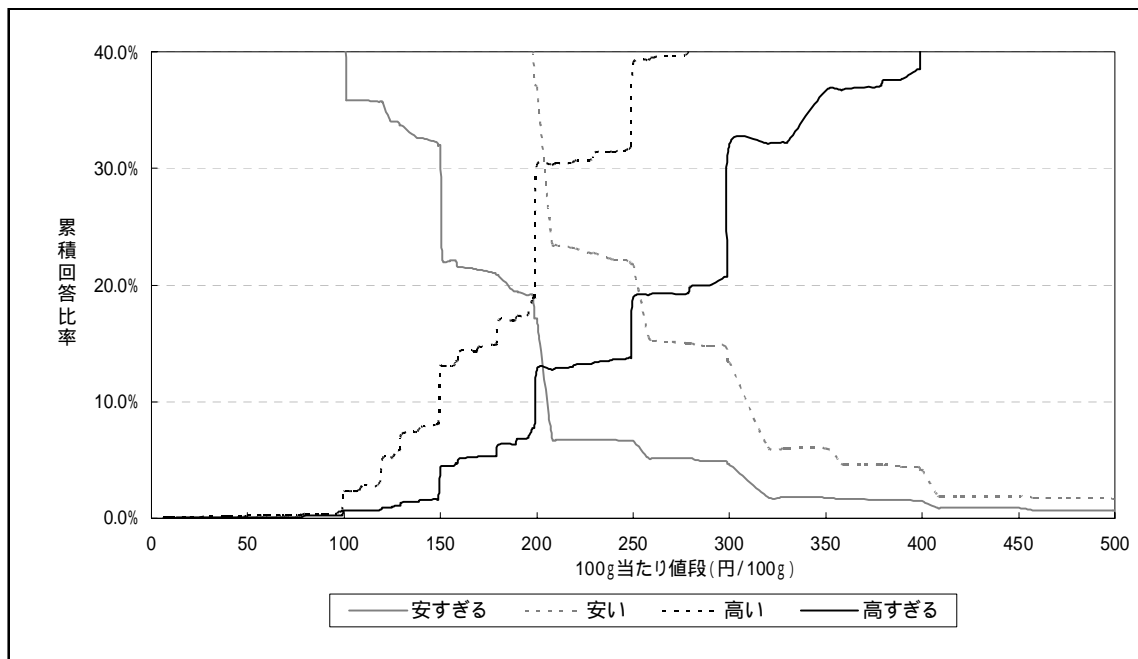
また、「理想価格」は299.0円 / 100g、「妥協価格」は298.7円 / 100g、ちょうど良い100g当たりの値段として最も回答が多かった値段は300円(11.4%)で、いずれも「最高価格」(306.2円 / 100g)と近い金額となった。

3 和牛以外の国産牛の価格感度測定

図表 - 5 和牛以外の国産牛の価格感度測定(全体像)

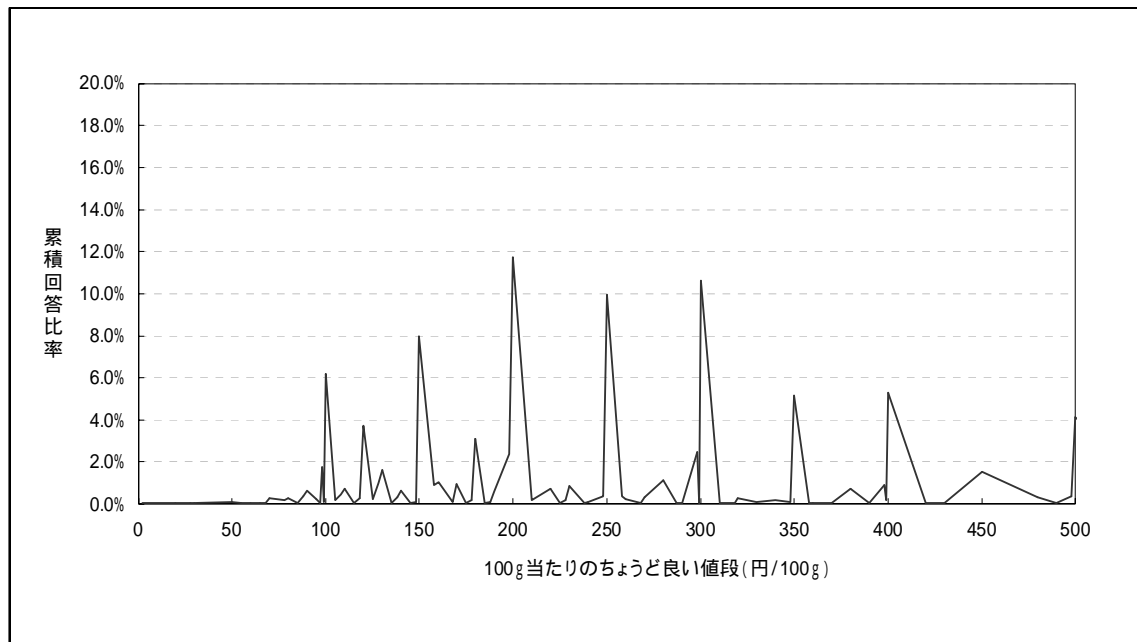


図表 - 6 和牛以外の国産牛の価格感度測定(受容価格帯近辺)



## 3 和牛以外の国産牛の価格感度測定

図表 - 7 和牛以外の国産牛のちょうど良い値段回答比率



和牛以外の国産牛の価格感度測定について、全体像を「図表 - 5」に、受容価格帯近辺のグラフを「図表 - 6」に示す。

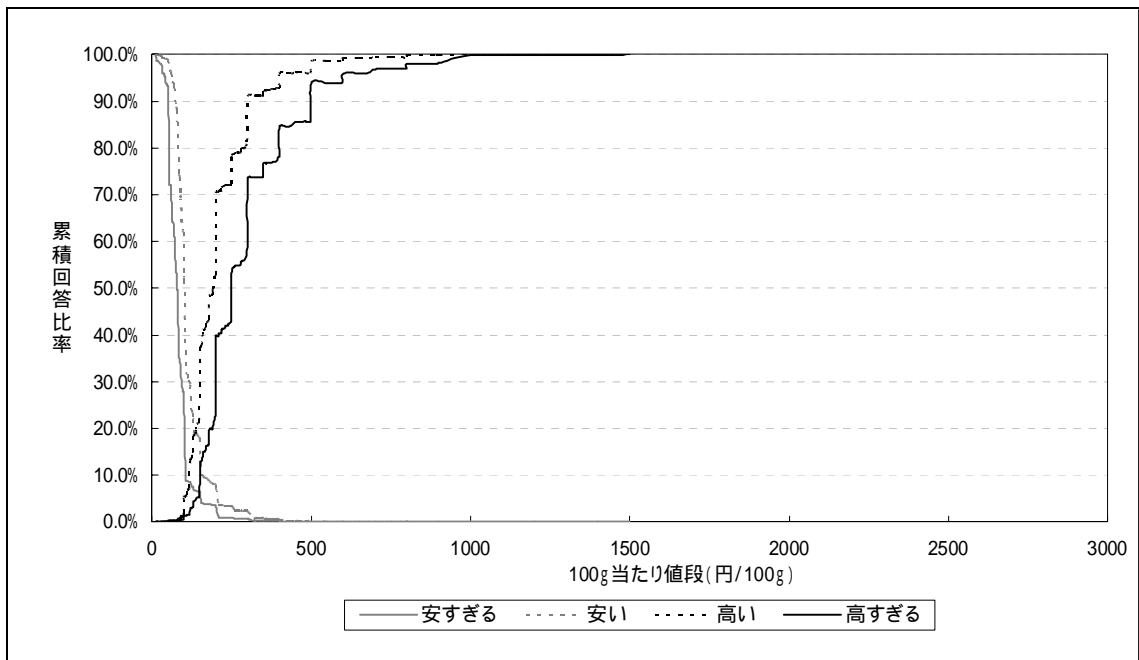
このグラフから受容価格帯を算出すると、「最低品質保証価格」が198.1円 / 100g、「最高価格」が253.6円 / 100gとなり、消費者は、和牛以外の国産牛100g当たり198.1円～253.6円(価格幅55.5円)を適正な価格の範囲として感じていることがわかった。

国産和牛と比較すると、「最低品質保証価格」は2.8円だが、「最高価格」は52.6円低くなる。価格幅の狭さは、品質の違いによる価格の変化をあまり認めていないということを示しているため、和牛以外の国産牛では、質よりも安さが重視されているものと推測される。

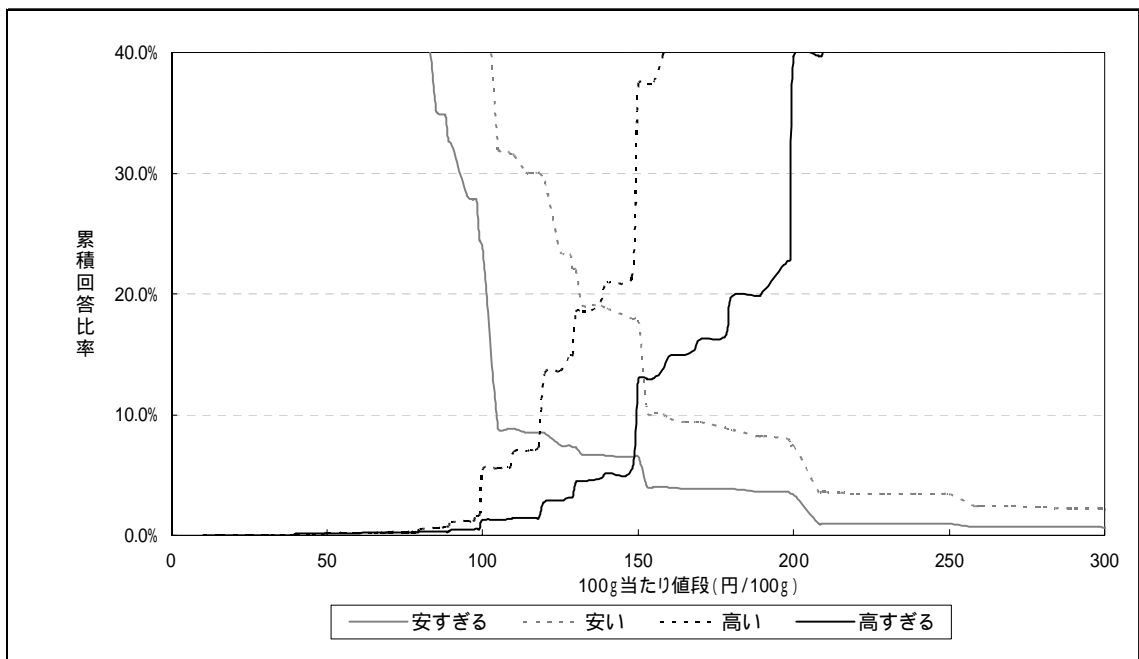
また、「理想価格」は203.4円 / 100g、「妥協価格」は204.0円 / 100g、ちょうど良い100g当たりの値段として最も回答が多かった値段は200円(11.7%)で、いずれも「最低品質保証価格」(198.1円 / 100g)と近い金額となった。

4 国産豚ばら肉の価格感度測定

図表 - 8 国産豚ばら肉の価格感度測定(全体像)



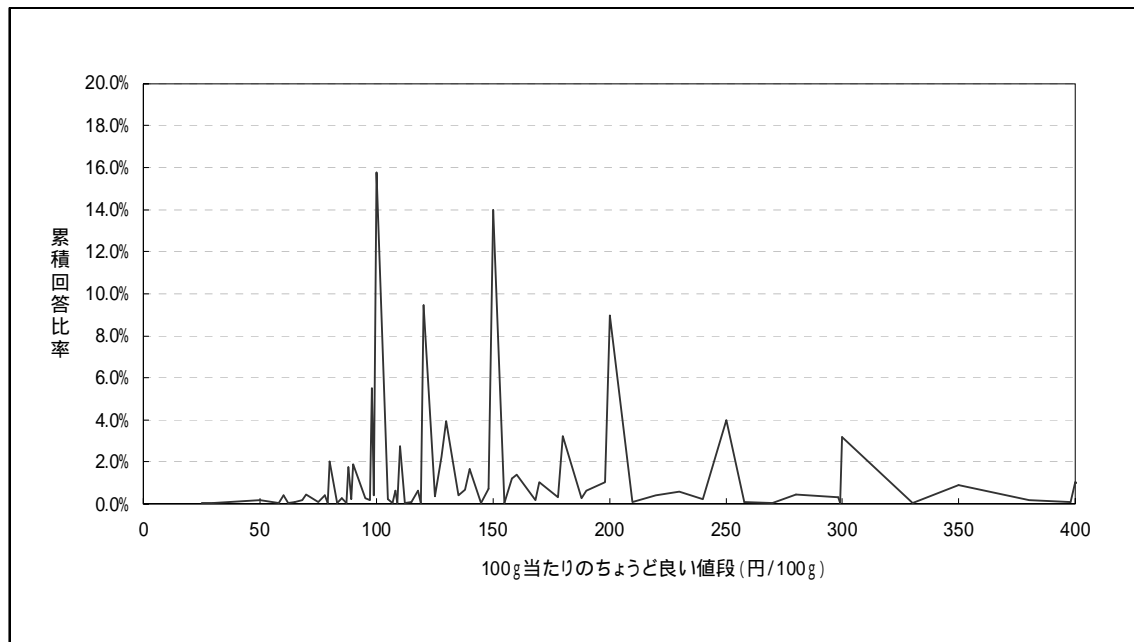
図表 - 9 国産豚ばら肉の価格感度測定(受容価格帯近辺)





## 4 国産豚ばら肉の価格感度測定

図表 -10 国産豚ばら肉のちょうど良い値段回答比率



国産豚ばら肉の価格感度測定について、全体像を「図表 - 8」に、受容価格帯近辺のグラフを「図表 - 9」に示す。

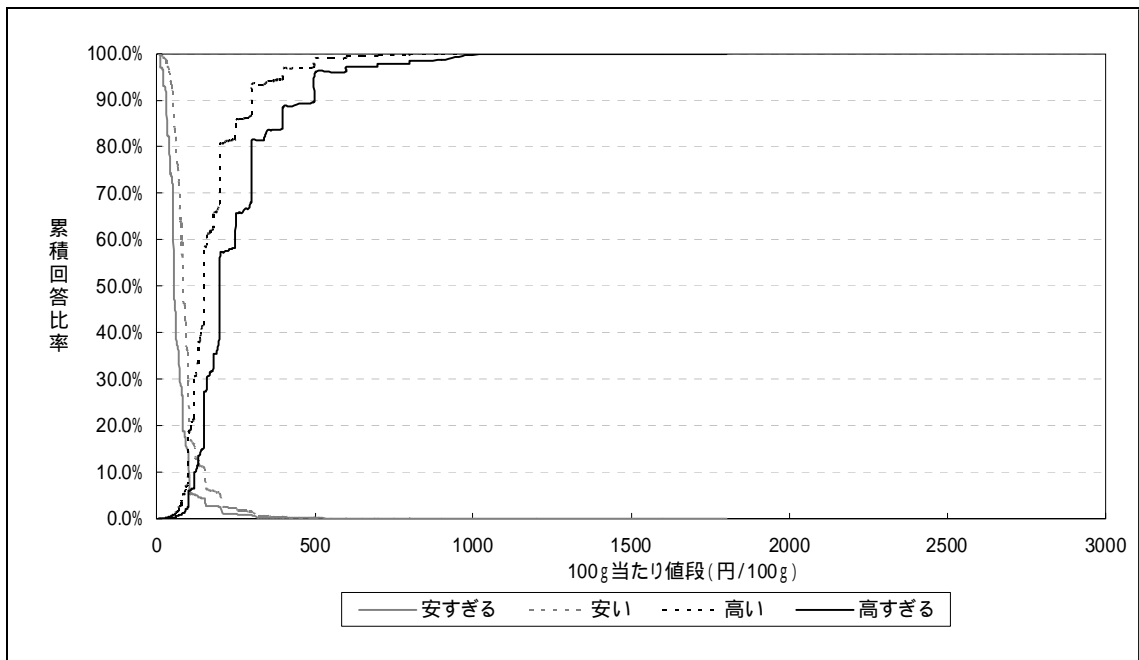
このグラフから受容価格帯を算出すると、「最低品質保証価格」が118.4円 / 100g、「最高価格」151.9円 / 100gとなり、消費者は、国産豚ばら肉100g当たり118.4円～151.9円（価格幅33.5円）を適正な価格の範囲として感じていることがわかった。

「理想価格」は148.3円 / 100gで、「妥協価格」136.8円 / 100gを11.2円上回る。これは、消費者がもっとお金を払っても良いと思っていることをあらわす。すなわち、ワンランク上の付加価値を求めているということになる。

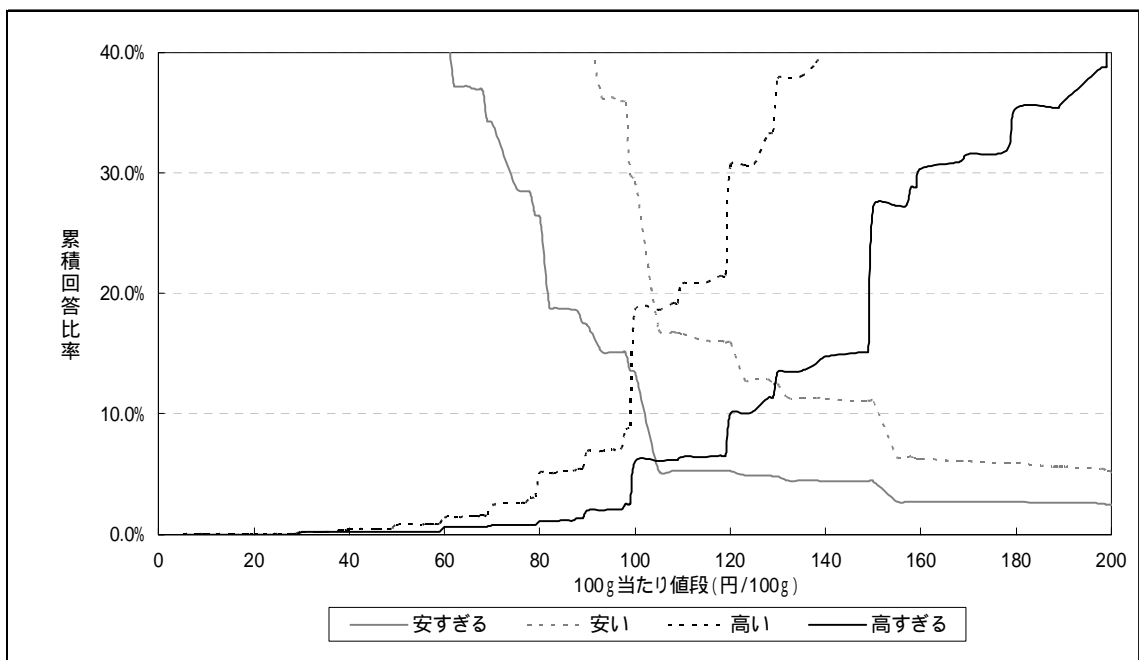
また、ちょうど良い100g当たりの値段として最も回答が多かった値段は、受容価格帯の範囲外の100円（15.8%）となった。

5 鶏もも肉の価格感度測定

図表 -11 鶏もも肉の価格感度測定(全体像)

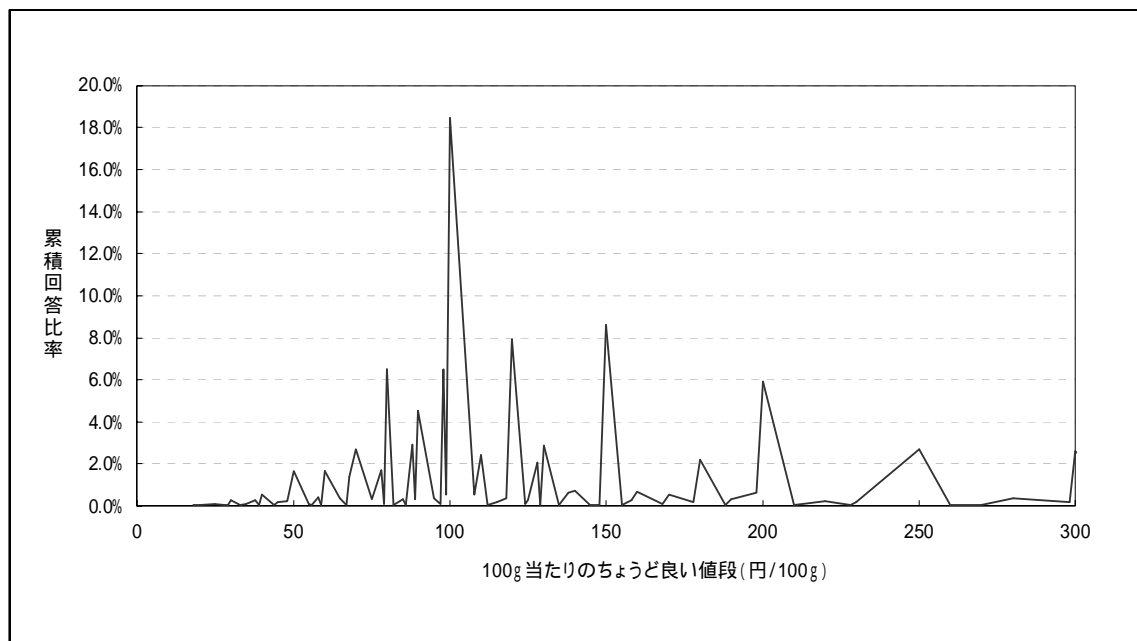


図表 -12 鶏もも肉の価格感度測定(受容価格帯近辺)



## 5 鶏もも肉の価格感度測定

図表 -13 鶏もも肉のちょうど良い値段回答比率



鶏もも肉の価格感度測定について、全体像を「図表 - 11」に、受容価格帯近辺のグラフを「図表 - 12」に示す。

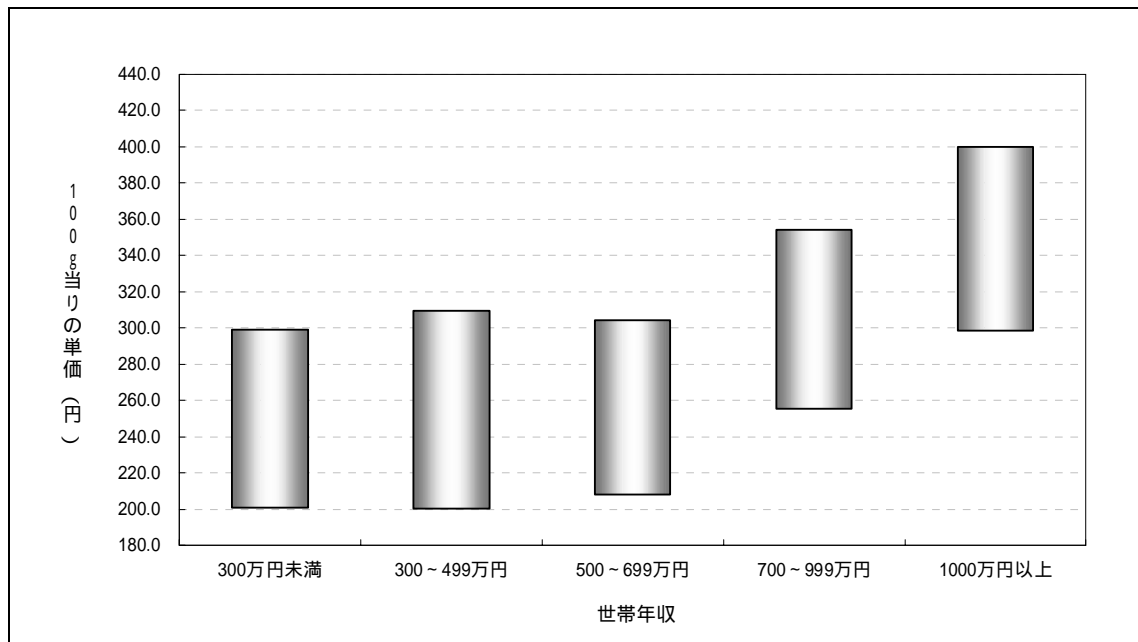
このグラフから受容価格帯を算出すると、「最低品質保証価格」は99.5円 / 100g、「最高価格」が129.5円 / 100gとなり、消費者は、鶏もも肉100g当たり99.5円～129.5円(価格幅30.0円)を適正な価格の範囲として感じていることがわかった。

また、「理想価格」は104.5円 / 100g、「妥協価格」は104.3円 / 100g、ちょうど良い100g当たりの値段として最も回答が多かった値段は100円(18.6%)となった。

## 6 世帯年収別の価格感度測定

## 1. 国産和牛

図表 -14 国産和牛の受容価格帯:世帯年収別



国産和牛の受容価格帯について世帯年収による違いを分析する。

世帯年収ごとの安さの限界点 (PMC) と高さの限界点 (PME) との価格幅 (受容価格帯) を示したものが「図表 - 14」である。

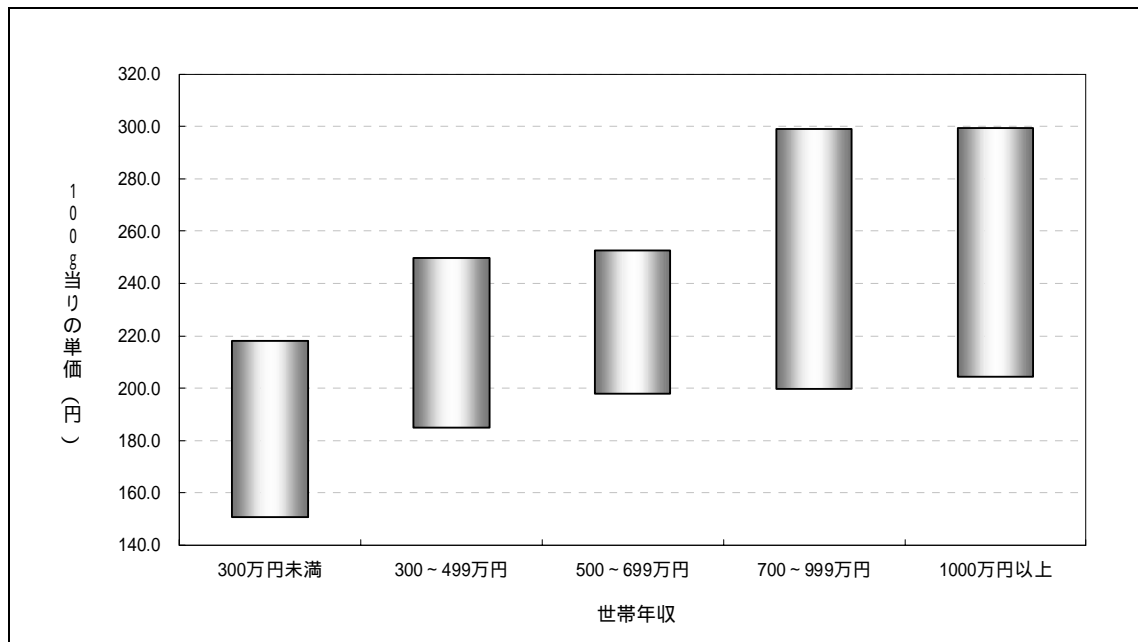
この図をみると、受容価格帯は世帯年収699万円以下、700～999万円、1,000万円以上の3層に大きく分かれていることがわかる。どの層も需要価格帯の幅は100円/100g程度だが、年収の層が上がるにしたがって、需要価格帯が50円/100g程度上昇している。

また、300円/100gが世帯年収によって異なる意味合いを持つ。300万円未満、300～499万円、500～699万円の各層では、300円/100gが高さの限界点、700～999万円は300円/100gが需要価格帯のほぼ中心、1,000万円以上では安さの限界点が300円/100gとなっている。

## 6 世帯年収別の価格感度測定

## 2. 和牛以外の国産牛

図表 -15 和牛以外の国産牛の受容価格帯:世帯年収別



和牛以外の国産牛の受容価格帯について世帯年収による違いを分析する。

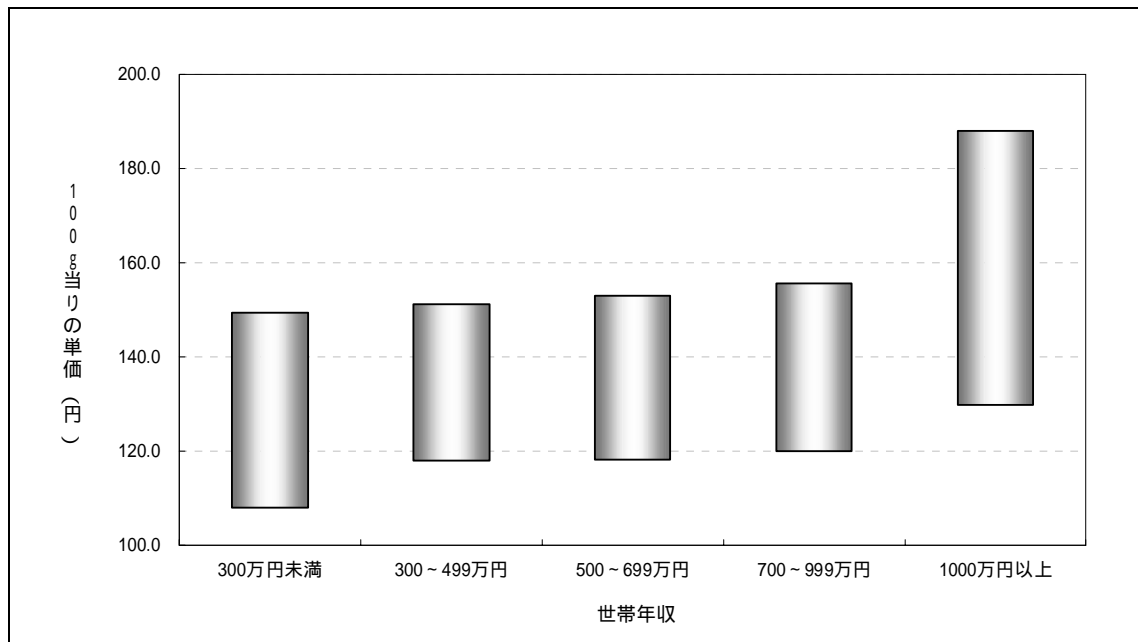
世帯年収ごとの安さの限界点 (PMC) と高さの限界点 (PME) との価格幅 (受容価格帯) を示したものが「図表 - 15」である。

この図をみると、受容価格帯は世帯年収300万円未満、300～699万円、700万円以上の3層に大きく分かれていることがわかる。世帯年収300万円未満では約220円/100gを上限としている。300～499万円、500～699万円では220円/100gを受容価格帯のほぼ中心にしている。700～999万円、1,000万円以上は、下限は300～499万円、500～699万円とあまり差がないが、上限金額が300円/100gとなり、受容価格帯の幅が広い。品質による価格の変化をある程度容認していると考えられる。

## 6 世帯年収別の価格感度測定

## 3. 国産豚ばら肉

図表 -16 国産豚ばら肉の受容価格帯:世帯年収別



国産豚ばら肉の受容価格帯について世帯年収による違いを分析する。

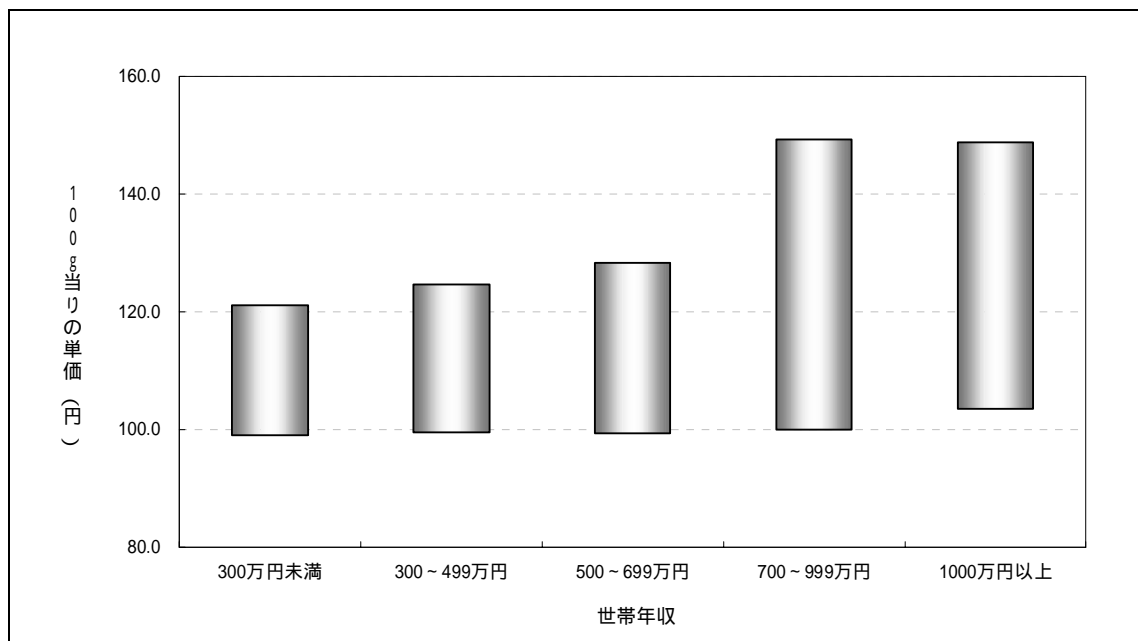
世帯年収ごとの安さの限界点 (PMC) と高さの限界点 (PME) との価格幅 (受容価格帯) を示したものが「図表 - 16」である。

この図をみると、受容価格帯は世帯年収999万円以下と1,000万円以上の2層に大きく分かれていることがわかる。世帯年収999万円まで上限金額は150円 / 100g前後で、あまり大きな差はみられない。これに対し、1,000万円以上では上限金額が188.0円 / 100gと跳ね上がっている。

## 6 世帯年収別の価格感度測定

## 4. 鶏もも肉

図表 -17 鶏もも肉の受容価格帯:世帯年収別



鶏もも肉の受容価格帯について世帯年収による違いを分析する。

世帯年収ごとの安さの限界点 (PMC) と高さの限界点 (PME) との価格幅 (受容価格帯) を示したものが「図表 - 17」である。

この図をみると、受容価格帯は世帯年収699万円以下と700万円以上の2層に大きく分かれていることがわかる。「国産和牛」「和牛以外の国産牛」「豚ばら肉」と比較すると、世帯年収の違いによる下限金額の差は小さい。これに対して、上限金額は世帯年収特700万円を境に大きく上昇し、受容価格帯の幅が大きく伸びている。